〈研究論文〉

現代タイ社会における若者の精霊信仰にメディアが及ぼす影響

― バンコクの大学生のアンケート調査をもとに ―

ポンサピタックサンティ　ピヤ*

Ⅰ．はじめに

タイは、国民の９割を仏教徒が占める上座部仏教国であるが、同時に、ピー信仰と呼ばれる精霊信仰がいまだに根強い社会でもある。ピー信仰は外来宗教伝来以前からタイ族の間で信仰されていたとされ、後に仏教と習合し、日々の仏教実践に入り込んでいる。では、ピーとは何か。精霊やカミにあたる様々な超自然的存在を「ピー」と呼び、その意味するところは、土地・家・集落等空間の守護霊、祖先霊、田畑や山川草木の霊、幽霊・悪霊等様々である[1]。

ピーは、大きく分けると、善霊と悪霊の２つに分けられるとされる。例えば、天界の精霊（ピー・ファー）や守護霊（テーパーラック）などが善霊の典型であるが、このような存在は、ピーと呼ぶよりもむしろ「テワダー（天使）」という概念範疇に含まれるものであろう。しかしテワダーと言っても、その神意に沿わぬ行動を人間がとるのであれば、テワダーの怒りにふれ、人間に災厄がふりかかることもある。ゆえにピーの概念区分は難しい。

ピーという存在は、人間の価値基準で善悪を決められるものではなく、気まぐれでいたずら好きであり、彼らのやりたいように行動する。人間のできることは、彼らが人間に害悪をなさないように祀り上げ・慰撫し、常に人間に対し善い存在であるようにと、心がけることになる[2]。このようにピー概念は曖昧な部分を多く残しており、また、後に仏教と共に入ってきたバラモン・ヒンドゥー的神概念とも習合している。そのため、タイでは「ピー」という用語を単独で用いず「ピー・サーン・テーワダー」という表現で妖怪的なもの、神的なもの、土俗的なもの、外来的なもの全てを含んだものとして説明する。本論文で使用する「精霊信仰」という言葉は、この「ピー・サーン・テーワダー」に相当するものである。

現代タイ社会において、農村部では、ピーは上述の土地神や先祖霊、守護霊といったカミ的側面や妖怪・幽霊としての存在も含む多面的なイメージで理解されることが多いが、都市部では、「ピー」と聞いてまず人々に連想されるのは「幽霊」や「悪霊」である。宗教離れが進み、自然との関わりも薄い都市民にとって、こうした傾向はやむを得ないと言える。しかし、都市農村を問わず、タイ人はホラー映画の好きな国民でもあり、毎年多くのホラー映画が制作され、映画館で上映される他、テレビでもホラー映画が再放送されたり、テレビ独自のホラー番組やテレビドラマが制作されたりしている。そこで題材とされているのは、上述した「幽霊」

*長崎県立大学国際情報学部准教授

や「悪霊」としてのピーである。

さて、このように毎年作り出され、マスメディアにより社会に向かって送信されるピーのイメージは、タイの人々のピーに対するイメージや、引いては精霊信仰自体に何らかの影響を及ぼしていると考えられる。

例えば、有名な怪談「メー・ナーク」（もしくはナーン・ナーク）は、19世紀初頭に実際に起こったストーリーとして今も語り継がれている。それは、戦争に行った夫の帰りを待ちながら、産褥死した女性ナーク（Nak）の悪霊（ピー・プラーイ）が、村人たちに次々とりついて殺害するという話である。この人気の怪談は、テレビや映画で何度も取り上げられており、今でもリメイクが繰り返されている。しかし、タイで最も恐れられるピー・プラーイであったメー・ナークが、実は夫の帰りを待ち焦がれ再会を果たせずに亡くなった可哀想な貞女の霊であるというイメージの変化や、高僧トーの出会いにより成仏するというストーリーは、メディアが何度も実写化する中で付加されていったと考えられ、現代のタイ人の「メー・ナーク」イメージの変化に影響を及ぼしていることがうかがわれる[3]。

また最近の話を事例としてあげると、昨年初頭からバンコクの若者の間で「ルーク・テープ」という赤ちゃん人形が爆発的に流行し始めた。これは、中国から輸入した実物大の赤ちゃん人形に僧侶が呪文を吹き込むことにより、新たに願掛け人形として売りだされたものであり、所有者に幸運を呼ぶという口コミがネットを中心に拡がって、テレビでも大々的に報道され、一大社会現象となった。今年初頭には政府や宗教局が僧侶によるルーク・テープへの呪文吹き込みを禁止し沈静化を図り、一旦はルーク・テープ人気が落ち着いたように見えるが、この騒動により、タイの都市民の間でまだ「呪術」信仰が根強いことや、イメージ・情報の拡散にマスメディアが少なくない役割を果たしていることが改めて浮き彫りにされたと言える。

こうした背景のもとに、筆者は、タイ都市社会における若者の精霊信仰やスピリチュアルな志向に、マスメディアの果たす役割は大きいのではないか、という問題提起を行うに至った。そして特に、情報社会を生きるタイの若者は、メディアから精霊信仰に関するイメージや情報をどのように得ており、精霊信仰に対するイメージや実践においてどのようにメディアの影響を受けているのだろうか。このような問題意識により、本研究ではタイの若者を調査対象として、現代タイ社会における若者の精霊信仰にメディアが及ぼす影響を明らかにすることを目的とする。そして、本研究は先行研究の視点では見落とされがちだった「非西欧圏」の事例として、「アジア圏」に属するタイをとりあげ調査を実施した。

先行研究について言えば、現代タイ社会における若者の精霊信仰とメディアとのかかわりという観点からの詳細かつ計量的な研究は、筆者の知る限りあまり存在していない。したがって本研究は、タイの事例を提供するとともに、国際相互理解の促進という点で、タイ以外の他国では、まだあまり検討されてこなかった人々の精霊信仰とメディアとの関連性という研究の蓄積に貢献できるものとなろう。

Ⅱ．調査方法

まず、本研究の調査方法について、詳細に説明したい。筆者は、タイの若者の精霊信仰とメディアの影響を明らかにするため、昨夏、バンコクの複数の大学においてアンケート調査を実

施した。以下、調査の具体的な内容について述べる。

アンケート調査については、2015年９月１日から11日にかけて、バンコクの以下の大学においてアンケート調査を実施した。タマサート大学（タープラチャン・キャンパス)、チュラーロンコーン大学、そして、シーナカリンウィロート大学（プラサーンミット・キャンパス）の大学生・大学院生の400名男女である。３つの大学とも、バンコク都の都心部に位置し、学生がメディアと接触する上で問題がなく、調査対象に適切だと考える。

次に、アンケート内容について説明する。本研究では、先行研究にもとづき、本研究の研究テーマである以下の３つの項目にわたって調査した。１）精霊（ピー）に関するイメージや情報を得たメディア、２）マスメディアを通して連想した精霊（ピー）の属性、３）マスメディアを通して連想した精霊の性格のイメージである。以上３つの項目について調査したうえで、そこからさらにコード化して分析した。結果、調査された質問項目は合計で９つとなった。具体的には、第一に、精霊に関するイメージや情報を得たメディアに関する１つのアンケート質問項目がある。第二に、連想される精霊に関する４つのアンケート質問項目があって、第三に、連想される精霊の性格に関する４つのアンケート質問項目がある。

さらに、対象者の一般的な情報として、性別、年齢、出身地域、そして、信仰宗教に関する４つの質問も行った。なお、アンケート調査にあたっては、対象者のプライベートな情報は取得していないため、個人の人権及び利益の保護に対する問題はないと考えている。

データの収集方法としては、2015年９月１日から11日にかけて、筆者とタイに居住する共同研究者が、各大学にアンケートを配布し、データを回収した。そして、すべてのアンケートのデータをコード化・入力した上で、SPSS によって分析を行った。

Ⅲ．タイにおける若者の精霊信仰とメディアの分析結果

Ⅱで説明した調査方法によって、本節では精霊に関するイメージや情報を得たメディア、そして、精霊の認知イメージの分析結果を述べる。まず、本研究で得られた分析結果全体の概要について説明する。本研究では、全体で400部のアンケートを分析した。女性の対象者は286名（71.5%)、男性は114名（28.5%）であり、年齢別から見れば、18－25歳は361名(90.3%)、26－35歳は30名（7.5%)、そして、36－50歳は９名（2.3%）となっている。また、大学間の比率についてもふれておくと、タマサート大学の学生は226名（56.5%)、チュラーロンコーン大学の学生は121名（30.3%)、そして、シーナカリンウィロート大学の学生は53名（13.3%）である。

対象者の出身地域については以下の通りである。まずバンコク出身者は251名（62.7%)、バンコクを除くタイ中部は40名（10.0%)、南部は33名（8.3%)、北部は24名（6.0%)、東北部24名（6.0%)、東部19名（4.8%)、そして、西部は９名（2.3%）となっている。信仰している宗教に関しては、仏教徒は361名（90.3%)、キリスト教徒は16名（4.0%)、無宗教は13名（3.3%)、イスラム教徒は10名（2.5%）である。

次に、１）精霊に関するイメージや情報を得たメディア、２)連想される精霊イメージ属性、３）精霊の性格に関するイメージ、以上の３つ

表１　精霊に関するイメージや情報を得たメディア

メディア	（%）
テレビドラマ	182（45.5）
映画	68（17.0）
テレビ番組	61（15.3）
インターネット	24（ 6.0）
書籍	14（ 3.5）
マンガ	8（ 2.0）
雑誌	2（ 0.5）
CM	1（ 0.3）
その他	40（10.0）

の項目の分析結果を述べたい。

第一に、精霊に関するイメージや情報を得たメディアについての分析の結果を見て欲しい（表１参照）。この表を見れば分かるように、半数近くの人々は精霊に関する情報をテレビドラマから得ていると回答している。ドラマ以外のテレビ番組を含めると、約６割がテレビを情報源にしている。第２位の映画が17%、そしてインターネット（６%）や書籍（3.5%）が続く。表１の結果から、回答者の３分の２は、精霊についての情報をテレビから得ていることが分かる。スマートフォンの急速な普及に伴い、今後はインターネットによる情報収集を行う割合が増える可能性もあるが、手軽にアクセスできるテレビの影響は今後も続いていくと思われる。

続いて、連想される精霊イメージの結果について見て行きたい。この質問は、「若い女性のイメージがある精霊」「中高年の女性のイメージがある精霊」「若い男性のイメージがある精霊」「中高年の男性のイメージがある精霊」の４つの項目に分け、それぞれ思いつく精霊名を挙げてもらったものである。

まず、「若い女性のイメージがある精霊（表２参照）」では、約半数が「ナーン・ターニー」

表２　若い女性のイメージがある精霊

女性の精霊	（%）
ナーン・ターニー	190（47.5）
何も思いつかない	64（16.0）
ナーン・タキアン	43（10.8）
ナーン・グワック	38（ 9.5）
ピー・ガスー	24（ 6.0）
その他	17（ 4.3）
メー・ナーク	9（ 2.3）
メー・ヤー・ナーン	8（ 2.0）
メー・ポーソップ	4（ 1.0）
ピー・ポープ	3（ 0.8）

表３　中高年の女性のイメージがある精霊

女性の精霊	（%）
メー・ヤー・ナーン	135（33.8）
ピー・ポープ	107（26.8）
何も思いつかない	49（12.3）
メー・ポーソップ	35（ 8.8）
ナーン・タキアン	32（ 8.0）
ピー・ガスー	17（ 4.3）
その他	15（ 3.9）
ナーン・ターニー	10（ 2.5）

を挙げている（47.5%）。続いて「ナーン・タキアン」が10.8%、「ナーン・グワック」が9.5%、「ピー・ガスー」が6.0%、その他が4.3%である。何も思いつかないとした回答者の割合が16%である。「ナーン・ターニー」とは、ターニー種のバナナの精霊である。「ナーン・タキアン」はタキアン木の精霊、「ナーン・グワック」は福の女神、そして「ピー・ガスー」は生き物の臓物を食べるとされる妖怪である。

続けて、中高年の女性のイメージがある精霊は以下のとおりである（表３参照）。「メー・ヤー・ナーン」が一番多く33.8%、「ピー・ポープ」が26.8%、「メー・ポーソップ」が8.8%、そして「ナーン・タキアン」が８%であり、そ

の他が3.3%である。何も思いつかないと回答した者の割合が12.3%である。メー・ヤー・ナーンはタイ南部や東部の沿岸地帯で有名な船霊であり、現在では職業的運転手の間でも信仰されている。ピー・ポープは、ピー・ガスー同様、生き物の内蔵を食べる妖怪である。また、「メー・ポーソップ」は稲の神である。

次に、若い男性のイメージがある精霊（表４参照）は、クマーン・トーンが圧倒的に高く84.3%、テーパーラックが5.0%、ガハンとその他がそれぞれ1.3%である。何も思いつかないと回答した者の割合が8.3%である。クマーン・トーンは胎児のミイラに呪術により命を吹き込んだ妖怪の名前であり、古典作品では有名な「使い魔」である。いつの頃から「福の神」とみなされるようになり、自宅の神棚にクマーン・トーンを祀っている庶民も多い。また、テーパーラックは、ある地域を守る天使である。そして、ガハンは昼間に普通の人間の姿をしているが、夜になると盗んだお盆を羽のようにして空を飛び、人々を怖がらせて回る[4]。

最後に中高年の男性のイメージがある精霊は以下の通りである（表５参照）。テーパーラックが最も高く64.3%、ピー・ポープが5.0%、その他が4.8%である。何も思いつかないと回答した者の割合が23.8%である。プー・ソームとは古い宝物を守る高齢の男性の精霊である。

以上のように、女性の精霊に比べると、男性の精霊についてのイメージは、若い男性のイメージがある精霊はクマーン・トーン（84.3%）、中高年のイメージがある精霊はテーパーラック（64.3%）と、回答が集中しているのが特徴である。ところで、現代の都市部でも福の神として人気のある「ナーン・グワック」「クマーン・トーン」、タイのホラー映画では妖怪ゾンビの代名詞としても使用される「ピー・ポープ」「ピー・ガスー」が想起されるであろうことは筆者も予測はしていたが、「ナーン・ターニー」、「ナーン・タキアン」、「メー・ヤー・ナーン」と言った昔からフォークロアの中で語られてきたカミとも妖怪ともつかない古い精霊の名前の回答が多かったことは意外であった。

なぜ地方のフォークロアで語られてきたピーが、現代バンコクの学生の間でも想起されるのであろうか。なぜ数あるピーの中から、これらのピーが選ばれたのだろうか。そして、そもそも実体のない（場合によっては性別もない）ピーであるにもかかわらず、若かったり年取ったり、というイメージが同じピーに対して同時に付与されているのはなぜだろう。

タイのピー信仰においては、多くのピーは明確な実体イメージのないまま民衆の間で語り継がれてきた。そのため、語り手によって、精霊のイメージが異なるのは自然である。しかしナーン・ターニーやメー・ナークのように、テ

表４　若い男性のイメージがある精霊

男性の精霊	（%）
クマーン・トーン	337（84.3）
何も思いつかない	33（ 8.3）
テーパーラック	20（ 5.0）
ガハン	5（ 1.3）
その他	5（ 1.3）

表５　中高年の男性のイメージがある精霊

男性の精霊	（%）
テーパーラック	257（64.3）
何も思いつかない	95（23.8）
ピー・ポープ	20（ 5.0）
その他	19（ 4.8）
ガハン	5（ 1.3）
プー・ソーム	4（ 1.0）

レビや映画で繰り返しキャラクターが設定され、放送されるうちに若い女性のイメージが強くなっていったと考えられるケースがある。

またタイの数多くある精霊たちのなかで、なぜこのピーたちが想起されたのか、という点についても、やはりテレビや映画の影響が大きいと考えられる。ナーン・ターニー、ナーン・タキアン、メー・ヤー・ナーンは、テレビドラマ化されたり、コマーシャルに度々登場したり、と、タイのテレビでは馴染みの深い精霊だからである。例えば、中高年の女性イメージがあると回答された「メー・ヤー・ナーン」は、1999年、平日の夕方に７チャンネルで放送された家族向けのテレビドラマの主人公として登場し、テレビ視聴者の間ではお馴染みの妖怪となっている。ナーン・ターニーも、2003年、2006年、2010年に製作された作品に登場し、そして、ナーン・タキアンは、2010年の映画（Takien: The Haunted Tree）に登場していた。このようにマスメディアがドラマや映画の題材に取り上げることにより、若者の間でその名称が流布していったことは疑いがないと言える。

第三に、精霊の性別・年代別の性格イメージについて見てみるが、その前にまず述べておかなければならないことは、タイ人の伝統的なピー観である。Ⅰでも述べたように、本来ピーは、非常に感情的な存在であり、わがままで気まぐれでいたずら好きである。常に善であったり、常に悪であったりする絶対的な存在ではない。だからこそ、人間はピーを恐れ、祀り上げて慰撫しようとしてきたのである。このようなタイ人の伝統的なピー観を踏まえて、回答結果をみていきたい。まず、若い女性精霊の性格イメージは以下の通りである（表６参照）。復讐心が強い（31.5%）や恐ろしい（26.3%）のようにネガティブなイメージが約６割である。中高年の女性の精霊の性格（表７参照）は、恐ろしい（26.3%）のイメージが一番強いが、人間を守る（20.0%）といった母性につながる性格も多く回答されている。

表６　若い女性の精霊の性格のイメージ

性格のイメージ	**(%)**
復讐心が強い	126（31.5）
恐ろしい	105（26.3）
優しい	78（19.5）
獰猛	29（ 7.2）
弱い	19（ 4.8）
人間を守る	17（ 4.3）
冷静	12（ 3.0）
人間に冷たい	8（ 2.0）
無慈悲	6（ 1.5）

表７　中高年の女性の精霊の性格のイメージ

性格のイメージ	**(%)**
恐ろしい	105（26.3）
人間を守る	80（20.0）
優しい	52（13.0）
獰猛	43（10.8）
復讐心が強い	40（10.0）
無慈悲	35（ 8.8）
冷静	30（ 7.5）
人間に冷たい	8（ 2.0）
弱い	7（ 1.8）

他方、男性精霊の性格イメージは（表８参照および表９参照）は、共にネガティブな評価とポジティブな評価が相半ばしている。若い男性の場合は、優しい（22.5%）イメージが最多で、中高年男性の場合は、人間を守る（26.3%）というイメージが一番最も多く、女性精霊のイメージと対照的である。これが、マスメディアの影響なのか、それともそもそものタイ文化におけるジェンダーイメージに基づくものなのか、については今後さらなる分析が必要である

表８　若い男性の精霊の性格のイメージ

性格のイメージ	（%）
優しい	90（22.5）
恐ろしい	89（22.3）
人間を守る	49（12.3）
獰猛	42（10.5）
無慈悲	38（ 9.5）
復讐心が強い	32（ 8.0）
人間に冷たい	22（ 5.5）
冷静	19（ 4.8）
弱い	19（ 4.8）

表９　中高年の男性の精霊の性格のイメージ

性格のイメージ	（%）
人間を守る	105（26.3）
恐ろしい	80（20.0）
優しい	58（14.5）
無慈悲	46（11.5）
獰猛	45（11.3）
冷静	33（ 8.3）
復讐心が強い	20（ 5.0）
人間に冷たい	7（ 1.8）
弱い	6（ 1.5）

と思われる。

以上をまとめると、このアンケートをみる限り、タイの若者たちは、女性の精霊に対しては、怖い・復讐心が強いといったネガティブな印象を抱き、男性の精霊については、むしろ守護霊的・善霊的イメージを抱いていることが分かる。これは男性の精霊という言葉から想起されるピーが、クマーン・トーンという「福の神」やテーパーラックという「守護霊」であったことと関係があると考えられる。

さらに、対象者の性別と質問項目の有意な関係がみてとれるクロス集計（$P<.05$）について以下に述べたい（表10参照）。まず、精霊に関するイメージや情報を得たメディアについては男女の違いが見られる。具体的には、テレビドラマ・テレビ番組からイメージや情報を得たのは男性（39.5%・11.4%）よりも女性（47.9%・16.8%）のほうが多いが、インターネット・書籍・マンガからだと女性（5.6%・2.4%・1.0%）より男性（7.0%・6.1%・4.4%）のほうが多いことがわかる。

また、性別・年代別精霊イメージについての質問に対し、「何も思いつかない」と回答した人数は、女性より男性のほうが多い。たとえば、若い女性の精霊について「何も思いつかない」と答えた男性の割合は多く、31.6%であるが、女性の割合は9.8%と少ない。つまり、女性の回答者の方が精霊の属性や性格、ビジュアルイメージに敏感であり、男性の方はそうでもないと考えられるのではないだろうか。

Ⅳ．分析結果の考察

以上、現代タイ社会における若者の精霊のイメージとメディアに関するアンケート調査を分析してきた。その分析結果から、まず、約８割の回答者はテレビドラマや映画、テレビ番組から精霊に関するイメージや情報を得ていること

表10　性別と精霊に関するイメージや情報を得たメディアのクロス表（%）

	テレビドラマ	テレビ番組	ネット	書籍	マンガ	映画	雑誌	CM	その他	合計
男性	45(39.5)	13(11.4)	8(7.0)	7(6.1)	5(4.4)	20(17.5)	0(0)	1(0.9)	15(13.2)	114(100)
女性	137(47.9)	48(16.8)	16(5.6)	7(2.4)	3(1.0)	48(16.8)	2(0.7)	0(0)	25(8.7)	286(100)
合計	182(45.5)	61(15.3)	24(6.0)	14(3.5)	8(2.0)	68(17.0)	2(0.5)	1(0.3)	40(10.0)	400(100)

$P<.05$,（χ^2）$=15.732$, $df=8$（有意差がある）

が明らかとなった。その中でも、テレビは約６割と影響力が強い。そして、女性は男性よりもテレビドラマ・テレビ番組のマスメディアから精霊に関するイメージや情報を取得しているが、男性は女性よりもインターネット・書籍・マンガのパーソナルメディアから精霊のイメージや情報を得ていることがわかる。

また、思いつく男性精霊は、特定の存在に集中しており、８割の回答者は若い男性の精霊としてクマーン・トーンを想起し、約６割は中高年男性イメージの精霊としてテーパーラックを想起している。その一方、女性の精霊は幾つかに分かれる。約４割の回答者は若い女性精霊としてナーン・ターニーを思い出し、約３割は中高年の女性の精霊のメー・ヤー・ナーンを思い出している。そして、質問に対して、精霊を思いつかないと答える男性の回答者の割合は、女性より多かった。

さらに、女性の精霊は「恐ろしい」や「復讐心が強い」のような怖い性格がイメージされるが、男性の精霊の性格は、「優しい」や「人間を守る」といった善いイメージが強い。

以上の分析結果より考察を行っていく。まず、タイの都市部の若者は、精霊信仰に関するかなりの情報を、マスメディア、特にテレビから得ている。今までは社会発展の中で、人々、特に若い世代は、超自然的なものに対する関心を失い、むしろ宗教から離れていくと考えられてきた。その中で、若者たちのアニミスティックな事柄についての情報が、むしろマスメディアによって提供されているというのは筆者にとって意外であった。タイでは、精霊や幽霊をテーマにしたホラー映画が人気であるということも関係するのであろうが、同時に昔から存在する精霊の情報についてもテレビを通じて獲得していることがうかがわれる。

次に、連想される男性精霊の数の少なさと女性精霊数の多さであるが、これについては、タイのテレビや映画などのメディアに登場している女性精霊の多さが影響していることは明らかであろう。たとえば、タイでは何度も映画化やテレビドラマ化された女性の精霊である「ナーン・ナーク」「ナーン・ターニー」は、ドラマ化の中で、その属性や性格も具体的、多面的に形作られていくため、若者たちに強くイメージされる反面、接した映画やテレビドラマでの設定が、その精霊イメージとして個人の中に定着していく。

最後に、女性精霊には怖いイメージがつきまとっている反面、男性精霊のイメージはそれほどでもないことに関しては、テレビや映画などで、男性精霊や女性精霊がどのように描かれてきたのかということと強い関係があると考えられる。タイのホラー映画やテレビドラマでは、男性の精霊よりも、女性の精霊が多く登場し、怖い存在として描かれるためである。つまり、タイのメディアが、復讐心が強く人間を取り殺すような恐ろしい女性精霊イメージを形成してきたと考えることもできるのである。タイの若者たちはこうしたメディアに表象される精霊の影響を受け、今後も現代の精霊イメージを再生産していくのであろうか。

Ｖ．おわりに

以上、現代タイ社会における若者の精霊信仰にメディアが及ぼす影響について、2015年９月にバンコクで実施したアンケート調査に基づき考察した。

本論文では使用していないのだが、筆者は質問票の中に、「現代社会に精霊信仰は必要だと思うか」という質問項目をいれてみた。これに

対し、約７割の回答者が「必要である」と答えたのが印象的であった。仏教教育の盛んなタイでは、若者は日本に比べて、より宗教や超自然的な事柄について深く考えているのかも知れない。しかしタイでは、マスメディアも若者のスピリチュアルな思考に影響を及ぼしていることも明らかになった。前述の通り、タイはテレビなどのメディアの影響を受けやすい文化である。21世紀のタイで、若者たちが伝統的な精霊信仰とつながるのもまたテレビなのである。

また、精霊信仰を信じると回答した割合は、57.3%である。さらに、これらを男女別にみていくと、男性46.5%なのに対し、女性は61.5%にのぼる。つまり、女性の方が、精霊信仰を必要と感じており、また信じている割合が高い。この結果について、女性の方がメディアの影響をうけやすいと考えるのか、あるいはスピリチュアルなものに対して関心が高いから、メディアにアクセスするのか、その点については今後さらなる調査が必要であろう。

本研究では、先駆的研究の立場として、もちろんいくつもの限界と課題がある。１つは、タイ社会における精霊信仰とメディアの影響の結果については、文化的、社会的要因についてさらに深い考察が必要になるだろうという問題である。また、従来の研究では、「非西欧圏」、とくにアジア社会の事例をとりあげた国際比較研究が十分に蓄積されてきたとは言いがたい。今後は東南アジア諸国や日本などの他のアジア諸国の様相との比較が求められている。

アンケート調査の対象についても、本研究では主にバンコクを中心とした大学生男女400名に限定されていた。さらにタイの他の地域や多様な年齢層を対象に調査・分析していけば、その結果についてより厚みのある記述が可能になるだろう。最後に、今後、タイにおけるメディア状況や精霊信仰の変化のため、継続の研究調査が必要であることも書き加えておきたい。

注

1　速水洋子（2009年）「精霊信仰」日本タイ学会編『タイ事典』207ページ。
2　プラヤー・アヌマーンラーチャトン、森幹男編訳（1987年）『タイ民衆生活誌⑴　―祭りと信仰―』247-255ページ。
3　津村文彦（2009年）「タイの精霊信仰におけるリアリティの源泉―ピーの語りにみる不可知性とハイパー経験主義―」『福井県立大学論集』第33号、pp. １-24。および“ Mae Nak Phra Khanong-Wikipedia, the free encyclopedia ” https://en.wikipedia.org/wiki/Mae_Nak_Phra_Khanong
4　タイランドハイパーリンクス（2015年９月22日）「ガハンはタイで一番有名な男のオバケ」 http://www.thaich.net/news/20130817a.htm

参考文献

猪口孝編（2005年）『アジア・バロメーター都市部の価値観と生活スタイル―アジア世論調査（2003）の分析と資料』明石書店。
橋本（関）泰子（2012年）『アジアにおける精霊信仰の近代的変容―ジェンダー・地域・エスニシティに及ぼす影響―』科学研究費補助金基盤研究（Ｂ）研究成果報告書。
速水洋子（2009年）「精霊信仰」日本タイ学会編『タイ事典』めこん。
カムチュー・チャイワット、アーロン・スターン（2005年）「タイ：民主主義における繁栄の優位」猪口孝（他）編『アジア・バロメーター都市部の価値観と生活スタイル：アジア世論調査（2003）の分析と資料』明石書店。
プラヤー・アヌマーンラーチャトン（1987年）『タイ民衆生活誌⑴　―祭りと信仰―』森幹男編訳、勁草書房。
津村文彦（2009年）「タイの精霊信仰におけるリアリティの源泉―ピーの語りにみる不可知性とハイパー経験主義―」『福井県立大学論集』第33号、pp. １-24。

ウェブサイト

CINEMATODAY（2016年２月１日）『ナンナーク』 http://www.cinematoday.jp/movie/T0000445

宗教文化推進センター（2012年５月10日）「宗教文化教育の教材に関する総合研究」（科学研究費補助金基盤研究（Ｂ）研究代表者　國學院大學教授・井上順孝）による研究成果 https://sites.google.com/site/cercfilms/countries/thailand

タイ映画ライブラリー（2016年２月１日）「タイ映画の中で活躍する有名なピー（霊、お化け）たちを紹介しよう」http://www.asia-network.co.in/Zatsugaku1.htm

タイランドハイパーリンクス（2015年９月22日）「ガハンはタイで一番有名な男のオバケ」http://www.thaich.net/news/20130817a.htm

津村文彦（2011年）「論文の内容の要旨　タイ東北部における精霊と知識専門家をめぐる人類学的研究」 http://gazo.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gakui/data/h23/217629/217629-abst.pdf

Wikipedia（2016a 年２月１日）「ピー信仰」 https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%94%E3%83%BC%E4%BF%A1%E4%BB%B0

Wikipedia（2016b 年２月１日）「Mae Nak Phra Khanong」 https://en.wikipedia.org/wiki/Mae_Nak_Phra_Khanong

［付記］本研究は、「東アジアにおける宗教的シンクレティズムの社会学的研究―日本・中国・東南アジア―」（科学研究費補助金基盤研究（Ｂ）海外学術調査　研究代表者　四国学院大学・関泰子）による研究成果の一部である。この場を借りて、調査の機会を与えて下さった関泰子氏、調査を手伝って下さったタイ・タマサート大学・Assoc. Prof. Anna Choompolsathien 氏、そして、チュラーロンコーン大学・Dr. Montakarn Chimmamee 氏に深謝の意を表したい。